



IoTによる見守り支援システム「いまイルモ」

文溪堂出版「2024年度版小学校社会科資料集 5年」に掲載されました

株式会社ソルクシーズ（本社：東京都港区、代表：秋山博紀、以下ソルクシーズ）のIoTによる見守り支援システム「いまイルモ」が、株式会社文溪堂出版「2024年度版小学校社会科資料集 5年」に掲載されましたのでお知らせいたします。この資料は、今年4月から一部の小学校の授業で使用されます。資料では、情報を生かす医療・福祉の一つとして、センサーを利用した見守りシステムの使い方やセンサーから取得したデータの活用方法などが紹介されており、例として「いまイルモ」が掲載されました。



出版社：株式会社文溪堂
出版物：2024年度版小学校社会科資料集 5年
発行日：2024年4月1日
発行部数：300,000部
体裁：A4判（4色）
ページ数：134頁
その他：デジタル教材有り

6 情報を生かす医療・福祉

1 医療機関での情報の活用

医療機関では、どのような場面で情報を活用しているのでしょうか。

かかりつけの病院

- 総合病院へ
- 検査を受ける
- 診察を受ける
- 薬を受け取る

電子カルテ

- 治療の内容
- 診察の記録
- 薬の記録
- 検査情報

医師にとってよい点

- あらゆる病院や、看護士、薬剤師などとも無量の情報を共有できるので、すばやく正確な診療を行うことができます。
- 病院ごとにカルテを作成しなくてよいため、仕事の負担を減らすことができます。

患者にとってよい点

- 自分のこれまでの治療の記録が正確に集まるので、安心して病院を利用できます。
- 受け付けや会計がスムーズになり、待ち時間が短くなります。

2 医療情報の分析・活用

医療の情報は、どのように活用されているのでしょうか。

病院での診療

医療の研究

アプリの開発

電子カルテをはじめとし、病院などから得られる医療の様々な情報は、データベースとして集められ、各地の病院での診療や、医療の研究、新薬の開発、健康に役立つアプリケーションの開発などに使われます。

開発されたアプリケーション

新型コロナウイルスのワクチン開発

過去のデータをもとに、日々の食事や運動を記録することで一人ひとりに合った食事のメニューや運動を自動で提案します。

新型コロナウイルス感染症のワクチン開発にも、過去のデータなど、多くの医療情報が活用されました。

3 福祉産業での情報の活用

「見守りシステム」のしくみ

家の中にセンサーを設置し、行動を記録する。

高齢者の住む家

高齢者が進む日本では、介護施設だけでなく、自宅での支援を必要とする高齢者が増えています。

「見よう」

「見守りシステム」では、どのように情報を活用しているのかな。

一人ぐらしをする65歳以上の人の数

年	人数(千人)
2000	100
2005	150
2010	200
2015	250
2020	300
2025(推定)	350
2030(推定)	400
2035(推定)	450
2040(推定)	500
2045(推定)	550
2050(推定)	600
2055(推定)	650
2060(推定)	700

非常時のお知らせ

センサー

危険を感知したり、いつもとちがう行動をとったりしたときなどに、登録した家族などにお知らせします。

考えよう

情報の活用によって、どのような介護ができるようになったのかな。

情報の分析・活用

水を飲む回数

ねている時間

食事の回数

トイレの回数

センサーなどから、体の状態やくらしの習慣などの情報を集めます。

週に1回、運動をし、お話をしなう。

ケアマネージャー-介護が必要な人の相談を受け、一人ひとりにあった介護サービスが受けられるように支援する人。

情報をもとに、一人ひとりのくらしを分析します。ケアマネージャーなどが高齢者やその家族にくらしのアドバイスを行い、高齢者の自立したくらしを支援します。

オンラインでの医療や介護

病院や介護施設が少ない地域や、病院に通うことが難しい人に対して、インターネットやテレビ電話を利用して、はなれたところから診療や治療・介護などを行います。少子高齢化が進み、医師や介護に頼る人がますます不足していくとされる日本では、オンラインでの医療・介護の活用が期待されています。

まとめ

- 医療では、電子カルテの利用によって、患者のデータを別の病院と共有して活用することができます。(1)
- 医療に関わる情報が集められ、研究や健康に役立つサービスに活用されている。(2)
- 福祉産業の分野では、安全を守ったり、健康なくらしにつなげるために情報が活用されている。(3)

電子カルテ パソコンなどで入力して管理できるカルテのこと。

データベース 様々な情報をコンピュータでまとめて整理したデータの集まり。必要なときに必要なデータをすぐに取り出すことができます。

介護施設では、情報をどのように活用しているのが調べよう。

お年寄り見守りサービス (NINKO) SCHOOL 2.0

■ IoTによる見守り支援システム「いまイルモ」とは

2013年にスタートしたIoTによる見守り支援システム「いまイルモ」は、多機能センサーから得た日々の行動をデータ化し、兆候を“見える化”するためのシステムで、独り暮らしの見守りをはじめ、高齢者住宅、介護施設など様々なシーン向けにカスタマイズし、“いまイルモシリーズ”としてご提供しております。

【見守り支援システム「いまイルモ」に関するお問い合わせ先】

担当：IoT 事業推進室 六角（むすみ）

TEL: 03-6722-5019 FAX: 03-6722-5079

メールアドレス：support@imairumo.com

ホームページ：<https://www.imairumo.com/>

【会社概要】

会社名：株式会社ソルクシーズ

所在地：〒108-0023 東京都港区芝浦 3-1-21
msb Tamachi 田町ステーションタワーS 13F

代表者：代表取締役社長 秋山 博紀

設立：1981年2月

資本金：14億9,450万円（2023年12月末日現在）

事業内容：SI/受託開発業務（システムコンサルティング、システム的设计・開発・運用・保守）、ソリューション業務（セキュリティコンサルティング、パッケージシステムの開発・販売・保守）及び関連機器の販売等

ホームページ：<https://www.solxyz.co.jp/>

ソルクシーズグループは、
『お客様の業務改革を支えるのは、大胆で独創的な発想力、そして、迅速な対応力』を
モットーに、お客様の夢を実現するソリューション・カンパニーを目指しています。

	本リリースに関するお問い合わせ先
	株式会社ソルクシーズ 経営企画室
	TEL: 03-6722-5011（代表）
	FAX: 03-6722-5021
	Mail: ir-post@solxyz.co.jp
とろくん ソルクシーズイメージキャラクター	